

■ 工学研究科

地球環境デザイン学専攻
建築環境デザイン学コース

取得学位の名称
◆修士(工学)

履修条件 (アドミッション・ポリシー)

1. 建築分野の高度な学修と研究に意欲的に取り組み、倫理観を身につけ社会の発展に貢献する専門家を志す人
2. 地球環境と建築との関わりを学び、歴史を尊重し、工学と芸術の両面からの視点にたった新たな創造へのチャレンジを望む人

修了認定の基準 (ディプロマ・ポリシー)

地球環境デザイン学専攻・建築環境デザイン学コースでは、以下に掲げた目標を達成し、所定の単位を修得し、修士論文審査に合格した者に対して修士の学位を授与します。

1. 建築分野の専門的知識を活用して研究計画の立案・実施および成果の論理的説明を行う能力を修得し、技術者としての自覚と倫理観を身に付ける。
2. 人間社会の新たなニーズを見だし、これを効果的に実現するために必要な方針を定め、計画手法を修得して既存環境を再編するデザイン能力を身に付ける。
3. 健康と環境、自然と建築、建築と都市環境、人の活動と地球環境の関係を理解し、その調和を図る技術を提案する基礎力を身につける。
4. 建築物と自然現象の関係を理解し、構造設計および建築技術に活かす能力を身につける。
5. 建築に求められる役割・機能を認識し、新たな建築材料・構法を発想する創造力を養う。

到達目標に達するためのカリキュラム方針 (カリキュラム・ポリシー)

学部教育において修得した知識を基礎として、建築学と地球環境に関する高度で先端的な専門知識を身につけるため、建築構造、建築材料、建築環境、建築計画などの専門分野と、先端科学・技術や技術経営、知的マネジメントなどに関する共通科目から選択して履修します。ただし、1年次には必修科目として「創成工学プロジェクト」を履修します。

さらに「建築環境デザイン学特別研修」を必修とし、「建築環境デザイン学特別実験」あるいは「建築環境デザイン学特別設計」を選択必修として、指導教員による2年間の一貫した指導の下に、先端的な研究課題に取り組みます。課題の遂行にあたっては、半期ごとに指導教員による評価を受け、「建築環境デザイン学特別設計」を選択した場合には、2年次の10月に中間発表会を行います。2年次の終わりに研究成果をまとめて、「建築環境デザイン学特別実験」を選択した場合には論文を、「建築環境デザイン学特別設計」を選択した場合には設計図書を提出して発表会に臨み、審査を受けます。

地球環境デザイン学専攻・建築環境デザイン学コース カリキュラムツリー

先端的な専門知識の修得

専攻専門科目

| | | | |
|-----------|--------------|-------------|---------------|
| 建築設備工学特論 | 建築計画特論 | 環境デザイン基礎特論 | 構法設計法特論 |
| 建築構造材料特論 | エコロジカル建築特論 | 建築構造学特論 | 環境設備特論 |
| 環境材料学特論 | 振動工学特論 | 建築耐震設計特論 | 建築インターンシップA・B |
| 建築構造解析特論 | 建築破壊力学特論 | 建築設計特論 | |
| 建築設計演習Ⅰ・Ⅱ | インターンシップ設計演習 | 建築設計実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | |

共通科目

| | | |
|---------------|-----------|-------------|
| 創成工学プロジェクト | 技術経営特論 | 経営情報工学特論 |
| ものづくり実践特論 | ベンチャー経営特論 | 大学院インターンシップ |
| 知的リスクマネジメント特論 | | 知的財産権特論 |

修士（工学）学位取得

先端的な研究課題の遂行

1年次

- 建築環境デザイン学特別研修Ⅰ
- 建築環境デザイン学特別実験Ⅰ
あるいは
- 建築環境デザイン学特別設計Ⅰ

2年次

- 建築環境デザイン学特別研修Ⅱ
- 建築環境デザイン学特別実験Ⅱ
あるいは
- 建築環境デザイン学特別設計Ⅱ + 中間報告
- 論文あるいは設計の発表・提出・審査